
SA協議会

2012年度 東京スキルアップミーティング 報告

SA協議会

2012-09-14

報告項目

1. 概略計画(幹事会メンバーにて計画運営を実施)

東京会場

2. 参加者

3. 当日の内容報告

東京会場

4. アンケート結果

アンケートの集計は別PDFファイル参照

1. スキルアップミーティング概略計画(東京会場)

開催概要(各会場の詳細は次ページ以降を参照ください)

【東京会場】

- 開催日時：平成24年8月31日(金) 13時30分～17時00分
- 開催内容：講演とグループ討議
- 開催場所：明治大学紫紺館 3階会議室
- 定員：50名様
- 参加費：無料
- 懇親会費：4,000円(予定) ※懇親会へのご参加は任意です。
- 申込締切日：平成24年7月27日(金)着

【プログラム】

受付:13:00 開始

開会:13:30

終了:17:00 頃予定

懇親会:17:30～19:30

【開催内容】

- ・SA協議会会長からの挨拶と最近の安全動向の紹介(20分)
向殿 政男 明治大学教授
- ・第一部 講演(50分) タイトル「生産現場の残留リスク低減に寄与する支援システム」
副題「RFID、カメラを活用したリスクの低減」
＜講師：(独)労働安全衛生総合研究所 清水 尚憲 上級研究員＞
- ・第二部 グループディスカッション(120分)
テーマ：食品機械のリスクアセスメント

2. 参加者

参加希望者

東京 53名

当日参加者

東京 45名 + WG (7名) (懇親会参加者 15名)

3. 内容報告

3.2 東京会場

【プログラム】 13:30～16:45

●13:35 ご挨拶と講演

SA 協議会会長 明治大学教授 向殿 政男先生

●13:55講演「生産現場の残留リスク低減に寄与する支援システム」

副題 「RFID、カメラを活用したリスクの低減」

(独)労働安全衛生総合研究所 上席研究員 清水尚憲様

●14:45 グループディスカッション 60分

テーマ:「食品機械のリスクアセスメント」

●13:45 休憩 10分

●13:55 グループディスカッション報告会 約50分程度

各グループ(6グループ)発表 時間6分(質疑応答は別)

●16:45 総評

清水 尚憲様

向殿 政男先生

【懇親会】

場所;1F 「咲くら」

時間;17:30～19:30

3. 内容報告

- (1) ご挨拶とご講演 SA 協議会会長 明治大学教授 向殿 政男先生
「互いに勉強しあう場として有効に活用してほしい。」
・SAの重要な活動の場である。
・安全というものは、かなり知識、経験等でかなり勉強の時間が必要。
・安全への意識の広がりを図るために、皆さんの活動に期待したい。」
とのご挨拶に引き続き「安全に関する最近の動向と話題」と題してのご講演があった。(講演資料は、SA協議会掲示板に掲示予定)
- (2) ご講演 (独)労働安全衛生総合研究所 上席研究員 清水尚憲様
「生産現場の残留リスク低減に寄与する支援システム」(副題 「RFID、カメラを活用したリスクの低減」)と題して講演があった。
(講演の抜粋資料は、SA協議会掲示板に掲示予定)

向殿会長挨拶



清水様講演



3. 内容報告

(3) グループディスカッション

6グループ(各グループ7名or8名)にて清水様から提示していただいた「食品機械」について討議した。

＜非定常作業を含めた食パンのスライス作業について、危険源・危険状態の洗い出しとリスク評価を行い、適切な保護方策を検討する。また、そのリスク低減方策を採用する場合、どの程度リスクが低減できるかをあわせて検討する。＞

上記課題について、各グループとも活発な討議がなされた。



討議対象の電動スライサー

- ・作業概要
電動スライサーを使って、食パンを10mmの厚さに切る。
- ・機械条件
外形寸法 幅22.2×奥行33.2mm×高さ22.7mm、重量 2.85kg
- ・定格電圧:AC100V
定格周波数:50/60Hz
厚さ調節範囲 0～20mm
- ・刃の回転数 380rpm
- ・作業条件
1人の作業者が作業に従事し、7時間/1日の作業時間終了後、刃の清掃作業を行う。

3. 内容報告

(4)-1 グループ討議の状況



3. 内容報告

(4)-2 グループ発表



Aグループ°



Bグループ°



Cグループ°



Dグループ°



Eグループ°



Fグループ°

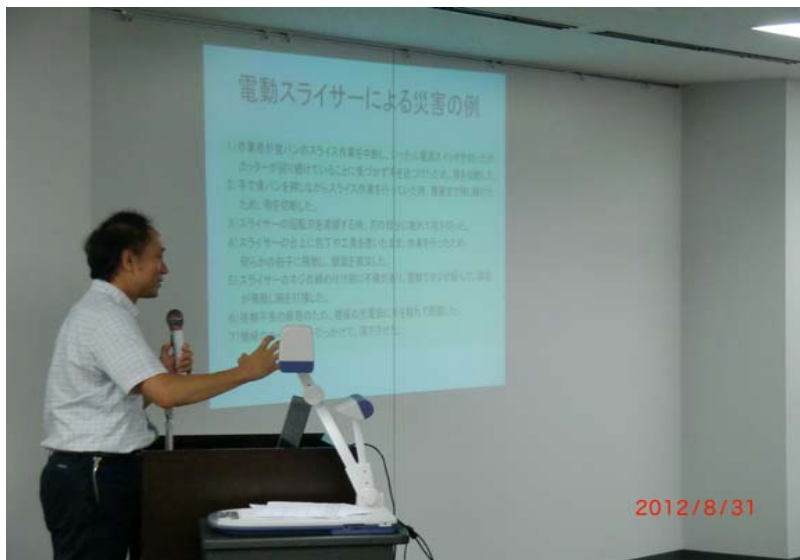
3. 内容報告

(4)-3 質疑応答および総評



活発な質疑が
行われた

清水様からの総評をいただき終了した



以下の観点を説明していただいた。**危険性有害性について**
1) 作業者が食パンのスライス作業を中断し、いったん電源スイッチを切ったが、カッターが回り続けていることに気づかず手を近づけたため、指を切断した。

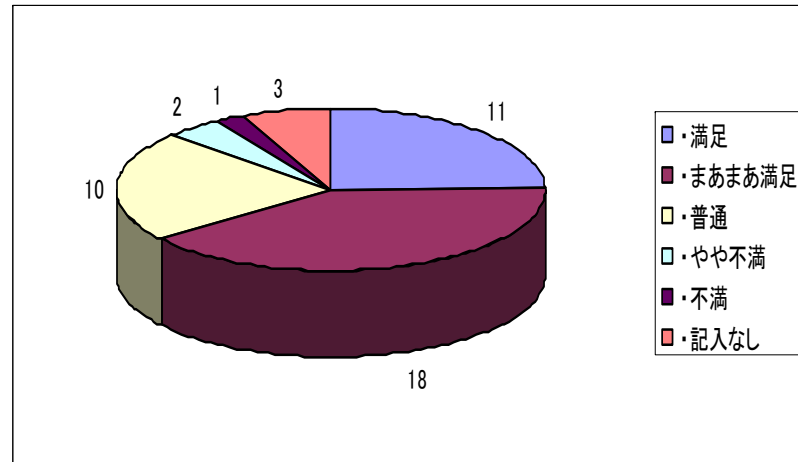
- 2) 手で食パンを押しながらスライス作業を行っていた時、最後まで押し続けたため、指を切断した。
- 3) スライサーの回転刃を清掃する時、刃の部分に触れて指を切った。
- 4) スライサーの台上に包丁や工具を置いたまま、作業を行ったため、何らかの拍子に飛散し、顔面を被災した。
- 5) スライサーのネジの締め付け部に不備があり、震動でネジが緩んで、部品が飛散し腕を打撲した。
- 6) 接触不良の修理のため、機械の充電部に手を触れて感電した。
- 7) 機械のコードに足を引っかけて、転倒した。

対策として

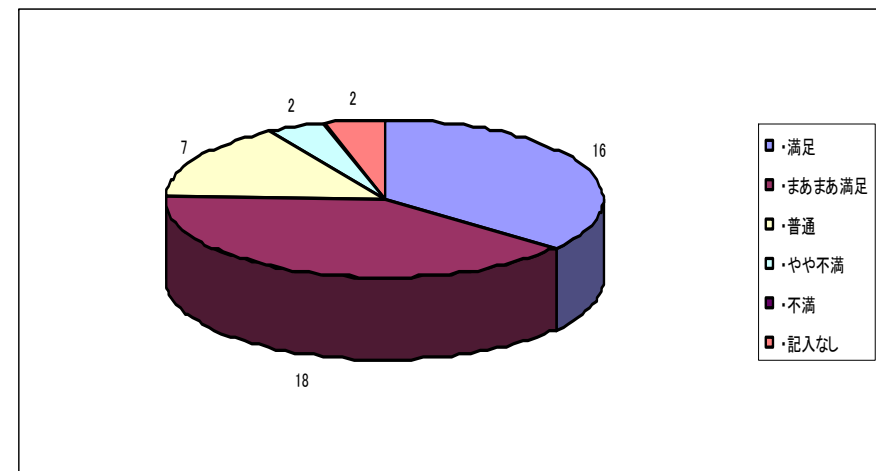
- 電源作業状態のランプを設置する。
- 作業現場の整理整頓を行う。
- 押し板を使用し、直接手で刃に触れないようにする。
- 非常停止ボタンを設置する。
- カバーを開けると刃の回転が停止する機構(インターロック)を導入する。
- 動力部の清掃手順を見直し、非定常作業についても作業標準を作成する。
- 必要に応じて切創防止手袋を使用する。

4. アンケート結果

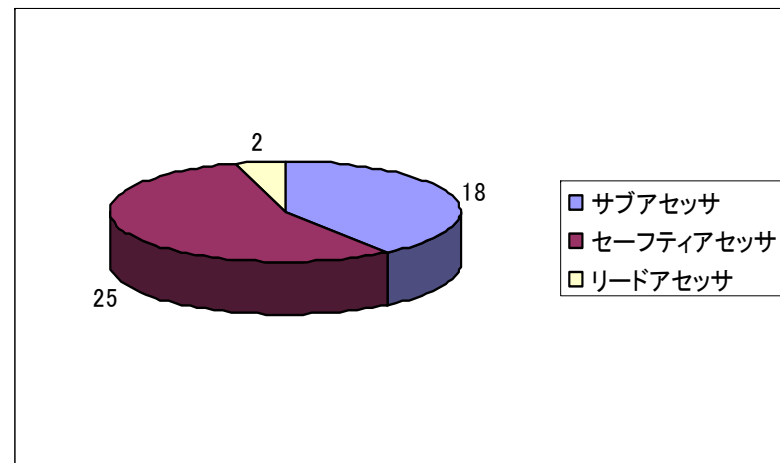
① 本日の講演についての感想は



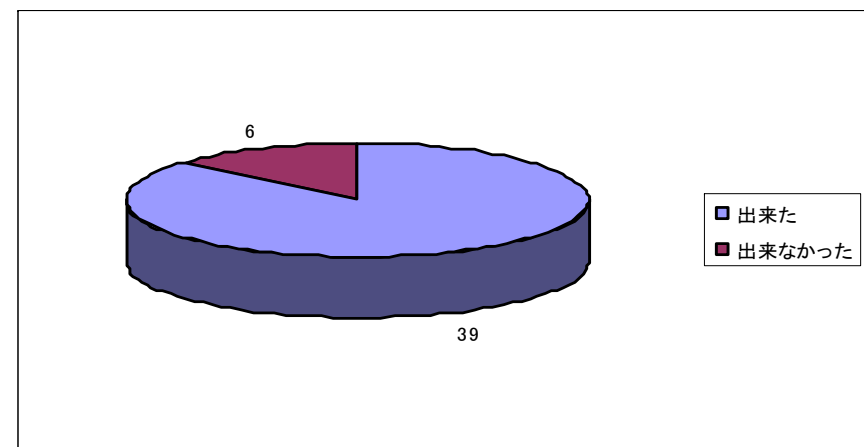
② 本日のグループ討議についての感想は



③ 現在の資格認証について



④ 参加してスキルアップできましたか?



5. 纏め

有意義なミーティングが開催されました。

① 講演は、

労働災害の発生状況や実際に発生した労働災害の事例などのご紹介を頂き、改めて安全の重要性を再認識した。このような情報を得ることは、SAにとって有益であり、今後の活動に資するものとなった。

→ アンケートにも講演が好評であったことと次回も講演の要望も多く、今後も講演の機会を作る必要性を認識した。

② グループ討議では、

実際の事例から問題点や対策などを検討する機会が与えられ有意義であった。アンケートでも、日常業務の中で実際に安全設備、システムを構築する機会は少ないため、好評であった。また、他の業界の方の意見を聞くことができたり、他の企業の方と交流できてよかったという意見が多かった。但し、時間が不十分との声も多かった。

→ 定期的にこのような機会を通じて安全技術の重要性や手法を再確認することは今後とも計画していく必要がある。

③ 懇親会では、

清水様初め安全の構築や普及を真剣に考えている、他社、他業種の方々と大変貴重な会話、交流をすることができた。

→ 安全技術の普及、SA協議会発展のためにも、このような場を広げて行くことが大変重要であると再確認した。

④ (会員が集まって交流する)場の設定については、

このような場を持ったことにより、初対面の方が結構名刺交換をされて懇談されており、掲示板・メールだけのつながりに比較して、FACE TO FACE での会話の重要性を改めて確認した。

→ 今後の活動活性化に向けて計画していく必要を認識した。